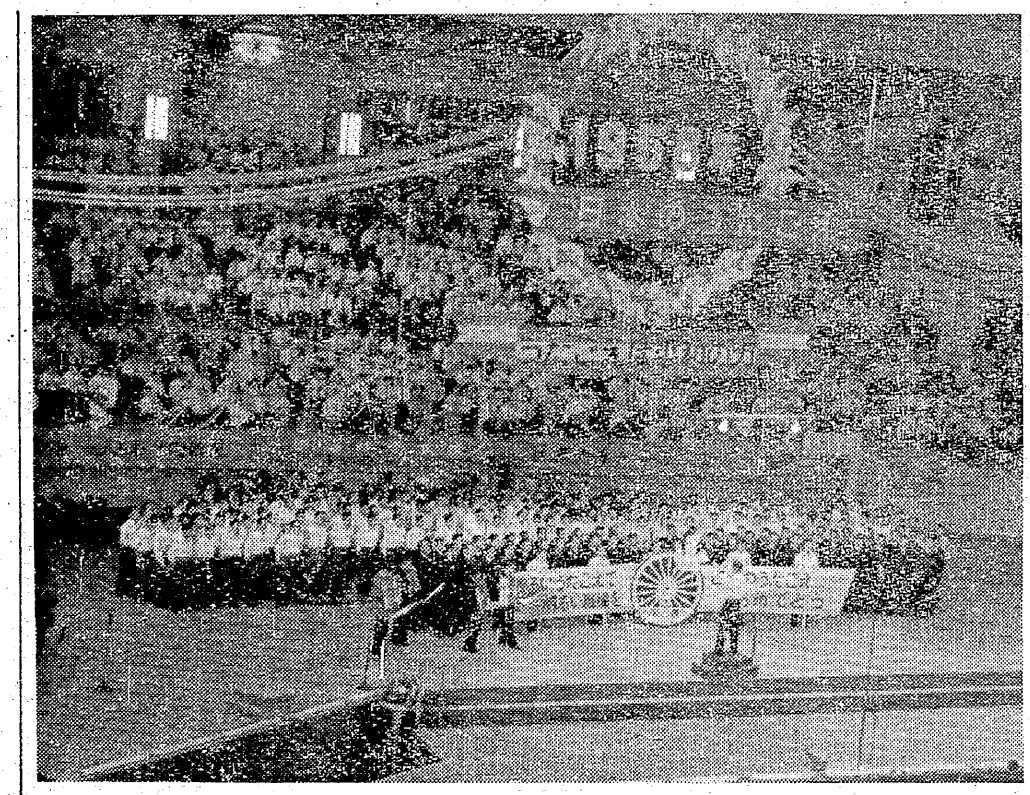
砂川や原爆被災者も参加
うた聲は平和の力
日本のうた声祭典ひらく

〃一九五六年日本のうたごえ祭典〃は十二月一日から三日間東京、千駄ケ谷の東京都体育館での大交流会を中心に都内数カ所でひらかれた。大交流会会場正面の大舞台の頭上には〃国際レーニン平和賞受賞記念、一九五六年日本のうたごえ〃〃うたごえは平和の力〃の文字がかかげられ、観客席両側は、総評、日青協、原水協、炭労、国鉄、東京労音の花環でかざられていた。午後五時十五分、高なるファンファーレの中で全国代表がプラカードをかかげて入場、祭典実行委員長関鑑子さんが「平和と幸福をめざして希望とよろこびにあふれた祭典にしましょう」と開会を宣言来賓を代表して藤岡総評副議長があいさつし、全員で〃若ものよ〃を合唱した。



日本のうたごえ大會場　舞台及び背後でうたうは国鉄のうたごえ

第一部の先陣をうけたまわつて二百名の電気の仲間が〃トロイカ〃〃お牧場はみどり〃を歌えば、初参加の自治労の労働者が組合歌をうたう。長野県浦里青年団の面白い〃壁ぬりおどり〃可愛い子供のうたごえ、千人をこえる全逓や日教組の大合唱、ガツチリとスクラムくんだ妙川の青年たちに満場は「シツカリヤレ、アメ公に負けるな」と激励の拍手でわきかえり夜行列車でかけつけた八百名の関西の仲間たちの合唱で第一部を終つた。

第二部は〃関西ばやし〃のし子舞いにはじまり、威勢のよい八丈島の太鼓ばやしや和歌山県の〃頗おどり〃現地からの代表も加わつた沖ナワの歌とおどり、中国戦犯帰還者たちが元気一ぱい踊る珍しい〃蒙古の狩人のおどり〃には満場の笑いと拍手がうずまく。中央合唱団と日雇合唱団の合同合唱のあと全員の合唱交流が神宮外苑の森にこだました。つづいて第二日目は原水協事務総長安井郁氏のあいさつではじまり、北陸の仲間や、司法、金融労、金融、日通、私鉄の労働者や高校生がうたい、白衣に身をつつんだ八百人の医療の仲間が〃ともしび〃をうたう。広島、長崎からやつてきた原爆被災者の代表が、生きていてよかつた〃を歌えば、場内は歌う者も聞く者も感激の涙をうかべ、歌がおわると同時に場内いつぱいいたわりと激励の拍手がなりやまなかつた。

第二部では七十人の学芸大吹奏楽団の演奏は場内水をうつたように聞き入らせた。この時ソヴエトから日本のうたごえに参加するためにやつてきたポリショイ劇場の新進歌手アルトウール・エイゼン氏が羽田から会場に到着、参加者の割れるような拍手の中で入場した最後の全員合唱ではエイゼン氏も舞台のスクラムの中に入り「それはぼくら青年だ」を歌つた。

「炭鑛ばやし」に賞讃
好感もたれた三池代表

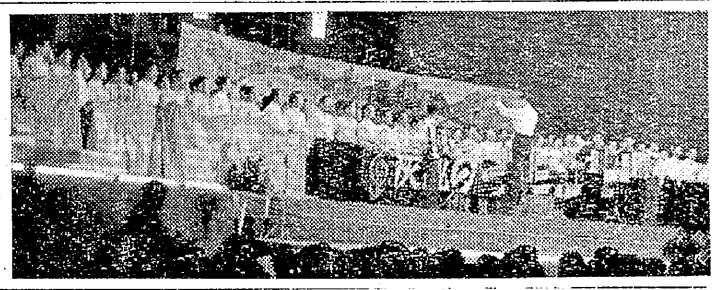
日本のうたごえには三池から、小山教宣部員外十二名が参加した、一行十三名は二十九日大牟田駅に百数十名の組合関係、うたごえの仲間達に力づよい激励のうた声で送られ「霧島」で上京した。

第一日目は代表者会議の決定により「雪崩大行進」を銀座四丁目に炭労の同志とともに「炭ほる仲間」を歌いながら出迎えた。

第二日目は全銀連会館で「炭鉱のうたごえ」が開かれ、九州、北海道、山口、常磐などから大勢のうたら仲間が集つた。尚この炭鉱のうたごえに全炭鉱系である常磐炭鉱のうたごえの仲間達が思想や組織問題を超越して、炭鉱のうたごえに集り、お国自慢の常磐炭鉱節ほか、うたや踊りをもち出して参加したことは、うたごえ運動の発展を如実に物語つていることを、うたら仲間達はともに感じた。「炭鉱のうたごえ」には三池から「肥後の嫁入歌」と「炭ほる仲間」を発表、三池のうたごえ運動を大いに伝えるに成功した。

第三日目は「日本のうたごえ」大交流が午後五時から東京体育館で開かれ、第一部の全国のうたごえには、三池の十三名は「炭鉱のうたごえ」として炭労、全炭鉱の仲間達とともに、三池の荒木栄氏の作詞、作曲になる「炭鉱ばやし」と北海道の仲間がつくつた「燃えろボタ山」の二曲をうたうことになつた「炭鉱ばやし」は荒木栄氏が当初指揮することになつていたが、都合で上京出来なかつたので製作支部の森川義弘氏が「炭鉱のうたごえ」三百数十名を巧に指揮し、万来の拍手を得た。

尚「九州のうたごえ」としては荒木氏作曲の「新さくら音頭」と九州のうたごえで創作曲の一位に入選した。全司法労組の作曲になる「沖ナワを返せ」の二曲で出場「新さくら音頭」の踊りは九州情緒が出て好評であつた。



また來年を約して

この大交流会は夜十時三十分までつづけられ、ソヴエト、新進バス歌手、エイゼン氏などの特別参加があり、散会に当つては、うたごえを進め、平和を守るための努力を約して、それぞれ全国へ、また来年の日本のうたごえを期待しつつ散つた。

三池から出場した十三名の行動については

谷口教宣部長（田川労組）

三池の代表は非常に真面目でわたくしは九州炭労の代表として非常にうれしかつた。

ややもすると三池は大労組であり、また総評や炭労での中核であるからハネ上つた行動があるのではないかという色目で見られがちであつたが、終始小山部員をリーダーに統制ある行動をとつていたことは、他のうたごえの仲間や炭労、三鉱連の執行員も賛讃していた。

若い人達が多いのに出演の態度も堂々としていたことは印象的であつた。

（写真は炭鉱のうたごえ）

組合運動とうた聲活動

本部　小山国男

初めは音楽センターの音頭とりで始められたうたごえ運動は、その後、文字通り国民全体のものになりつつある。本年は特に、この運動の指導者として、関鑑子女史に国際レーニン平和賞が授与されたことを記念して、十二月一日から三日間、東京の体育館を中心に大交流会、小交流会が開かれ、全国の歌ごえの代表者数万人が、唱い合い、語り合つた。

炭労としても二日目に全銀連会館で二回目の炭労のうたごえを開き、歌の交流と経験の交流を企画した。

炭鉱のうたごえで出されていた大きな問題の一つに組合活動とうたごえ運動の関連について、と云うのがあつた。うたごえサークルから出された意見の大要は次の通りである。「ほとんどの支部で、何の統制、指示もなしにこんどのうたごえに資金の援助をしてもらつた。このことは大変有難いことだが、組合の方で、サークルが進歩すると組合から離れていくと云う批判を聞く。それでなくとも、サークルと組合のつながりが完全にスツキリしているとはいえない」

私はこのことを中心にして、若干の意見を述べたい。

炭労及び三池の一九五六年度の行動方針、活動方針には文化活動の項に大要次の様なことがうたわれている。

「われわれは文化活動について、経済闘争で手一杯でとても文化活動まで手が廻らない」と云つた様な、『直接闘争に役立たない』と云う批判を聞く。それでなくとも、サークルと組合のつながりが完全にスツキリしているとはいえない」

私はこのことを中心にして、若干の意見を述べたい。

炭労及び三池の一九五六年度の行動方針、活動方針には文化活動の項に大要次の様なことがうたわれている。

「われわれは文化活動について、経済闘争で手一杯でとても文化活動まで手が廻らない」と云つた様な、過去の誤つた態度を捨てて、文化活動の真の意義――われわれの人間内容を内面からつくりかえていく闘争であることを――を正しく理解し、文化サークルの独自性をそこなわない範囲で積極的な援助をする。」

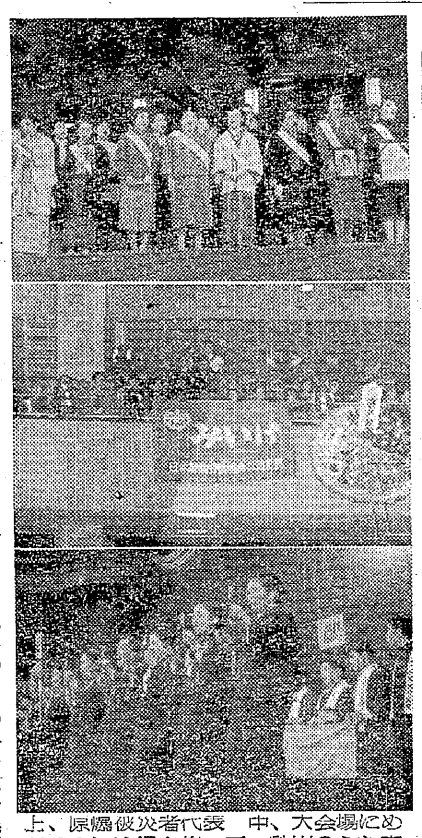
このことは言葉を換えていうなら、文化活動は人間の思想を内面から改造する闘争であるということであり、組合運動が、われわれの経済的、政治的要求を満たす闘争を通じて意識を高揚する（思想を改造する）ものとすれば、階級闘争の表裏を担つているともいえるのではないだろうか。特に、現在、生産性向上という柱を中心にわれわれの思想を蝕ばもうと攻勢を図つている反動勢力のマスコミを思うとき、サークル活動はより重要な意義をもつている。かつて、「組合から金を出している以上、組合で統制し、利用するのは当然だ。少くともサークルの我ままは許されない」という組合側の意見と「健全な文化活動に組合が援助するのは当然だ。しかし、そのために組合の道具にはなりたくない」というサークル側の意見との間には問題が起りつつ現在に至つている様だ。組合運動がブルジョアの慈善運動でない限り、又サークルが反動勢力のマスコミのお先棒担ぎでない限り双方に理のある云分の様に聞える。しかし、サークル活動の真の意義が正しく理解されるならおのづとこの問題は解決の方向へ進むのではないだろうか。健全なサークル発展の基礎を大衆におくなら、組合が心配する様な方向へ進むこともないであろう。もしたとえ組合から忠告すべき事態の時には組合の意見として問題をサークル内に提起しサークル内で討議し、態度を決めさすべきだと思う。勿論その決定は大衆にその基盤を置く。サークル員全員の討議によるべきだが、サークルが組合の代表として、代弁者として行動する場合を除いて、押しつけは避けるべきだと考える。

うたごえサークルにしても例外ではない。うたごえが闘争に直接役立つ部面を多く持つていたとしても、そのことのみによつて特別扱いすることは将来問題を起すのではないか。

文化活動の成果には時間が必要だ。しかし、欠くことの出来ない闘争である。組合予算の中に占める文化活動の予算の比率を見ればその組合の熱が評価出来るともいわれている。

真理が大衆の中にあることを理解するなら、大衆と共にあるサークルに大きな誤りを起すはずがない。

いろいろまとまりのつかない文章になつてしまつたが、諸賢の批判、御意見を聞かしていただければ幸いである。



上、原爆被災者代表　中、大会場にめだつみいけ組合旗　下、砂川のうた声

希望とよろこびの祭典

実行委員長　関鑑子

みなさん。

日本のうたごえ運動という大きい車輪は、美しい、たくましい歌声を奏でつつ、ゆつくりと、しかし確実に前にむかつて進んでおります。それは、きょうここにお集りの、うたごえを愛し、平和と幸福をのぞむ、みなさんひとりひとりの熱情から生れるエネルギーによつて進められているのです。

ふるさとを愛するうた、しあわせのうたは砂川を守る人々に勝利をもたらしました。しかし、私達の幸福はもう一歩進めなければなりません。

〃うたごえは平和の力〃の合言葉は、国内ばかりでなく、諸外国の人々の共感をよびました。そしてそれが真に力を発揮できるように世界のうたごえは、各国で用意されています。

こうして、国際レーニン平和賞に輝く一九五六年の日本のうたごえ祭典は、きょう国の内外からの激れいと期待のうちにひらかれるのでございます。

一年間の活動につながり、一九五七年にむかつての第一歩であるようの祭典を、みなさんと力をあわせて意義あるものに、平和と幸福をめざして、希望とよろこびにあふれる記念の祭典としてふさわしいものに成功させましょう。

（大会の挨拶から）

明朗職場建設のため

このたび、わたくし達十三名は日本のうたごえに三池労組の代表として出場させて頂き、組合員ならびに家族の皆様に心からお礼申し上げます。

意義ある日本のうたごえに参加し、感激で胸一杯であります。わたくし達は十三名だけのうた声参加であつてはならない。三池にはうたら仲間が大勢いるのだということで三日間を一生懸命らたいました。今後も三池のうたごえの仲間とともに平和と明朗職場の建設をうたごえを通じてうちたてるとともに、一人でも二人でも数多くの人々がうたごえに参加出来るよう努力することを誓つてうたごえ参加の感謝の挨拶に致します。

本部　小山国男
宮浦支部　長谷和哉　古賀力
柳本覚
四山支部　松浦繁末　石橋寛行
三川支部　沢口司　松坂藤男
本所支部　永田謙治
港務支部　中島良水　浦本明
三作支部　森川義弘　福岡努